

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	計画への反映状況	担当課
1	第1章 計画の基本的な考え方	SDGsと食育に関係があるのは、ほぼ間違いないと言っていいが、どのような点がSDGsのどの項目と関係してくるのか、など詳らかに明記したほうがいいと思う。 最近の風潮からして、とりあえずSDGsに触れておけばいいといった流れが感じられるためである。またそもそもSDGs自体、矛盾した点があるのも踏まえ、安易に用いるべきではなく独自の表現の仕方をするのはどうか。	SDGsと食育の関係が分かりやすいように、第3章(4)の食育推進計画の体系にて示し、推進していきます。	反映する	健康づくり推進課
2	第1章 計画の基本的な考え方	SDGsとの関連性が記載されていて良いと思います。 健康爛漫計画の「食生活」分野との連動がされていると良いと思います。栄養士・保健師・保育士との連携が必要と考えます。 高校生や大学生への啓発活動をこれまで以上に取り組むと目標指標が達成すると思います。	SDGsとの関係については、第3章(4)の食育推進計画の体系においても示し、推進していきます。 健康爛漫計画の「栄養・食生活」の分野との整合性を図るよういたします。 高校生や大学生等を対象とした「しずおかカラダにeat75」事業については継続して取り組んでまいります。	反映する	健康づくり推進課
3	第2章 食をめぐる現状と課題	「毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合」が低いことを課題としているが、一人で食事をするを好む市民もいると考えられるため、彼らの自由を阻害するような課題を立てることは望ましくないと考えます。	近年、様々な家庭環境や生活の多様化により、家族との共食が難しい人も増えています。しかし、共食は、会話やコミュニケーションが増えること、食事がおいしく楽しく感じられること等のメリットがあり、地域等で共食したいと思う人が共食する割合を増やすなど、市民の皆様が食を楽しむことができるよう取り組んでいきます。 ご意見については関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課
4	第2章 食をめぐる現状と課題	「地元(静岡市)で生産された物を日頃から購入するようにしている市民の割合」の目標値を5%くらい上げた方がいいと思います。	現状地(R4:21.0%)を踏まえ、地産地消など各施策に取り組むことで、割合を10%向上させる目標値(R12:30%以上)を設定いたしました。目標達成に向けて、各施策を推進していきます。	その他	農業政策課 健康づくり推進課
5	第2章 食をめぐる現状と課題	2-3食生活の現状で冒頭の「健康・食育に関する意識・生活アンケート調査」概要において調査対象の合計人数、7,300人を書き加えた方が良いでしょう。	ご意見ありがとうございます。 2-3食生活の現状での調査対象人数については追記しました。	反映する	健康づくり推進課

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	計画への反映状況	担当課
6	第2章 食をめぐる現状と課題	<p>「しずまえとは？」で、駿河区石部～清水区蒲原となっておりますが、確かにその通り。その通りなんですけど、静岡市の行政区域に固執することなく、もっと広い範囲で捉えた方が良いのではと思います。</p> <p>シラスに桜エビ、正にそうなのですが、私たち(50代ですが)の子供の頃は、はんぺんフライ(焼津の黒はんぺんをフライにしたもの)がソウルフードでした。また「静岡おでん」の代表格は串付き黒はんぺんです。</p> <p>行政区で割ってしまうと、あれは焼津だから違う街のものと受け止められがちですが、あれは子供も美味しく食べられる青み魚のすり身で、イワシの骨まで入っている正に静岡の子供の骨格を作ってくれた食べ物ですから、行政区を跨いだ静岡の誇れる食品だと思います。</p> <p>余談ですが、昔はどのスーパーでもお惣菜に黒はんぺんフライがあったのに、今はほとんど見かけないのが、とても悲しいです。</p> <p>静岡に昔からあったソウルフードを食育にも是非活用して頂きたいと思います。</p>	<p>静岡市の港で水揚げされた「しずまえ鮮魚」のほか、市内で加工した商品等についてもその魅力をPRし、更なる魚食文化の推進を図ってまいります。</p> <p>また、静岡市の美味しい食材についてはもっと広く周知し、その食材を利用した料理等についてもレシピを発信するなど、食育ボランティア等と連携していきたいと考えております。</p>	今後の取組の参考にする	水産漁港課 健康づくり推進課
7	第3章 基本理念と計画の視点	<p>学ぶだけでなく、自分で作れるようになった方が、もっと健康になりやすいと感じた。そこで、料理を作れるようになる料理教室を地域や学校でやるともっといいと感じた。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>調理や試食を通した体験型の教室を開催する場合は広く周知し、多くの方々に参加していただけるように工夫していきます。</p> <p>ご意見については関係部署等で共有いたします。</p>	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課
8	第3章 基本理念と計画の視点	<p>食育ピクトグラムが非常に分かりやすいため、園の子ども達にも普及・啓発し、食育を推進していきたいです。</p>	<p>次年度より、食育だより等をとおして、保護者や園児に対して発信していく予定です。</p> <p>また、食育ピクトグラムについては、市のSNS等においても活用していきます。</p>	反映する	こども園課 健康づくり推進課
9	第4章 食育施策の展開	<p>各項目の目標と現状の割合(%)が確認できますが、区切りを作って中間報告をし、達成状況の確認とそれに合わせた修正対応を行える仕組みになっていたらいいなと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>令和8年度に中間見直しを行う予定です。</p> <p>国の食育推進基本計画についても反映し、今後の取組を検討していきます。</p>	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課
10	第4章 食育施策の展開	<p>壮年期・高齢期の部分に「食べ方のマナーを伝える」とあるがマナーについては青年期までの若い時に覚えておく必要があるのではないかと。</p>	<p>食べ方のマナーを知ることは、より食に興味を持つ機会につながるため、壮年期・高齢期等の世代によって若い世代へ伝えていくことが重要と考えております。「ライフステージに応じた食育の推進」については、わかりやすい表記へ修正をさせていただきます。</p>	反映する	健康づくり推進課

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	計画への反映状況	担当課
11	第4章 食育施策の展開	4-1ライフステージに応じた食育の推進については、内容をもう少し整理し直したほうが良いと思う。	ご意見ありがとうございます。 基本方針に沿ったライフステージごとの食育について、わかりやすい表記となるように整理します。	反映する	健康づくり推進課
12	第4章 (1)栄養バランスに配慮した食生活の実践	教室を開いても、元々関心を持っている人しか参加しないと思うので、飲食店の方に手を加えるのは良いアイデアだと思いました。	健康や食に関して関心がない市民の方々も含め、自然に健康になれる食環境づくりを推進していきます。	登載済	健康づくり推進課
13	第4章 (1)栄養バランスに配慮した食生活の実践	対応策として挙げられている現在の施策について、とても良いものが挙げられていると感じたが、一人暮らしをしている学生や社会人にとっては、イベントに参加する時間や健康に配慮されたメニューを提供するレストランに行く時間といったものがあまりなく、対象が限定的になっていると感じたため、例えば健康的な料理のレシピの提供の促進であったり、気軽に健康的な料理を食べられるような宅配サービス(冷凍食品でも)を視野に入れてもよいと感じた。	健康や食に関する取組を広く周知していくことは重要です。特に若い世代の方々に食育に関心を持っていただくために、デジタル化に対応した食育の推進や健康食に取組む飲食店を増やしていけるように取り組んでいきます。	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課
14	第4章 (1)栄養バランスに配慮した食生活の実践	「元気で長生き栄養講座」について 高齢者対象で内容も充実しているので、ぜひ新規の参加者を増やすことができるとよいと思います。 その方法として、 ①高齢者が歩いて行ける会場の選定。身近な公民館等、調理室がなくてもIHや電子レンジでの簡単調理実演指導(缶詰・レトルト食品を利用したアレンジ料理)の検討 ②広報の方法として、高齢者が目にしやすい回覧板も利用 歩いていき、調理をして、共食する・・・ことはフレイル、認知症予防にも効果的だと思います。	①会場については、保健福祉センターだけでなくより身近な会場として生涯学習センター及び交流館等、市内各地で開催しています。また、缶詰等の既製品を利用した簡単アレンジ料理の調理体験・試食は現在実施しており、今後も継続して取り組んでまいります。 ②広報については、各世帯に配付する広報誌への掲載の他、健康まつり等のイベント時やS型デイサービス等にてチラシを配付しています。	今後の取組の参考にする	葵・駿河・清水区役所健康支援課 健康づくり推進課
15	第4章 (2)適正体重や減塩等に配慮した食生活の実践	一人暮らしをしている友達に自炊をしない理由を聞くと、面倒であることその他に、料理に使った野菜が余ることが嫌だという声を聞く。そのため、一人暮らし向けのカット野菜をスーパーで売ることを推進してほしい。	ご意見ありがとうございます。 関係部署等で共有いたします。	その他	健康づくり推進課

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	計画への反映状況	担当課
16	第4章 (2)適正体重や減塩等に配慮した食生活の実践	私自身、一人暮らしをしている大学生なのですが、野菜や果物は特に高く、なかなか手を出せません。物価を下げる取り組みをして頂きたいです。	ご意見ありがとうございます。関係部署等で共有いたします。	その他	健康づくり推進課
17	第4章 (4)よく噛んで食べることや楽しく食べる経験を通じた食生活の推進	こども園等において、よく噛むことへの指導とあるが、こども園だけでなく民間の幼稚園や保育園でも指導したほうがいいのではないかと。むしろ働く保護者の多い保育園での食事指導や歯磨き指導などは、保護者の負担を減らすためにも有効なのではないかと。	ご意見ありがとうございます。関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課
18	第4章 (4)よく噛んで食べることや楽しく食べる経験を通じた食生活の推進	「シニアカフェ」という名称について確かに国連では60歳以上を「シニア」としており「シニアカフェ」というネーミングは正確である。ただ、悪く言うと無難にも感じてしまう。新規の対応策として打ち出すからには、インパクトが必要であると考え。そのため、もっとチャームングで斬新なネーミングがいいのではと考える。	ご意見ありがとうございます。「シニアカフェ」は一般財団法人 日本食生活協会の事業を静岡市食生活改善推進協議会の推進員が開催しております。ご意見については静岡市食生活改善推進協議会と共有いたします。	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課
19	第4章 (5)食育の普及啓発・情報発信	学校給食ウェブサイトの開設は面白いなと思いました。大学生になっても「自分の学校の給食では～がでた」などと話題にすることがあるため、今の給食がどのようなものがあるのか、興味があります。高校生以降は給食を食べる機会がないため、年1でもいいので高校や大学でも給食を食べることができるイベントがあっても面白いのかなと思いました。	学校給食のウェブサイト「おいしい静岡いただきます」において、各学校給食施設の献立や給食メニューレシピだけでなく、地産地消情報や栄養士さんがブログ形式で投稿する記事(日常的な学校給食に関する内容)等の掲載を継続してまいります。高校生以上のイベントについてのご意見は、今後の参考にさせていただきます。	今後の取組の参考にする	学校給食課 健康づくり推進課
20	第4章 (5)食育の普及啓発・情報発信	「食育の普及啓発・情報発信」については、R4からR12までの目標指標の伸びが大きく、特に若い世代に対する対応策がとられている。そうであるなら、SNS等での情報発信があることを教員が促すことが必要だと思う。加えて、地産地消の教育を推進してもよいと思う。また、20、30代の人にも食育できるようなイベントを企業と連携して実施しても面白そうである。	若い世代を対象とした食育教室など、食に関心を持つ機会につながる取組を今後も増やしていけるよう、いただいたご意見については関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	計画への反映状況	担当課
21	第4章 (5)食育の普及啓 発・情報発信	「食品の安全・安心に関する知識の習得」や「食育の普及啓発・情報発信」「地産地消の促進」を目的としたとき、学校給食を活用し、こどもをターゲットとした食育活動は早い段階で食に関する知識の土台を作るのにとっても効果的だと思ふ。さらに、栄養バランスが熟慮された給食メニューのレシピを親世代向けに発信することで、日々の子育てや料理のヒントとして活用され、家庭においても食育への意識づけが深まることが期待されるのではと思ふ。	学童期、思春期前期に当たる児童生徒が、生涯健康を維持し、健康寿命を伸ばせるよう、その基礎となる食に関する指導の充実を目指し取り組んでまいります。また、学校給食のウェブサイト「おいしい静岡いただきます」において、各学校給食施設の献立や給食メニューレシピの公開を引き続き行ってまいります。	登載済	学校給食課 健康づくり推進課
22	第4章 (5)食育の普及啓 発・情報発信	食に関する展示やSNS等での情報発信は元々ある程度の関心があった者には届くかもしれないが、関心がない者の目にはつかない、つきにくいと思ふので、食育に関心を持つ若い世代や情報を得るために行動する若者の増加にはつながりにくいのではないかと思ふ。	若い世代を対象とした食の取組を今後はもっと増やしていけるよう、関係部署等と連携していきます。	今後の取組 の参考にする	健康づくり推進課
23	第4章 (5)食育の普及啓 発・情報発信	対応策として、大学で食育に関する講座をひらき、それが単位として認められるというような仕組みを作ることを提案したい。一人暮らしの大学生はどうしても栄養バランスがたよりがちである為、こうした取組を通してそうした世代へのアプローチが出来れば良いのではと思ふ。	ご意見ありがとうございます。 関係部署等で共有いたします。	その他	健康づくり推進課
24	第4章 (5)食育の普及啓 発・情報発信	栄養バランスなどに配慮した食生活を実践するには、やはり若い世代に向けていろいろ教えたり、発信するのはすごく大事であり、食育施策の対応策や取組をみるとそこが重点的になってよいと思ふます。貧困による食生活の影響も加味した取組をもっと打ち出すのもいいのかなと思ふました。	ご意見ありがとうございます。 関係部署等で共有いたします。	今後の取組 の参考にする	健康づくり推進課
25	第4章 (5)食育の普及啓 発・情報発信	私自身、高校生の時、食育に関して興味をもち、プロジェクトに参加したりしていたので、この話題にはとても共感が持てました。個人的には子どもの時からの食生活が大切だと思っており、小さなお子様向けにお料理教室を開催するなどしておりましたが、自身の小さな頃もそうであったように、やはり自分で作ったごはんというのは多少苦手なものが入っていても食べれるようになってきたり、記憶に強く残ったりするものです。そういった「小さい子が野菜料理に関心を持てるようにする」という点では、この料理教室は良かったように思ふます。地元の野菜を使ったお弁当作り教室などを開催してはいかがでしょうか。	ご意見ありがとうございます。 「しずおかカラダにeat75」事業では、高校生等に向けた出張型教室で野菜料理や簡単朝食レシピを調理実習・試食を通して開催しております。 地元の野菜を使った料理教室も開催しておりますが、今後も継続して取り組んでまいります。	登載済	健康づくり推進課

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	計画への反映状況	担当課
26	第4章 (5)食育の普及啓発・情報発信	食育という言葉は目にしたり、耳にしたりはしますが、中々普段の生活の中で仕事や学校と忙しく当たり前に生活出来ているほど、普段の食事に食育を意識し、食べれていない気はします。 保育園の調理師として、1人で18人分作る現場でしたが、食育としてどうしたら食べれるか？など考えて提供する事も楽しかったです。 保育園では2年に一度、嗜好調査を家庭にお願いしたりします。 そうした時は、色々な集計はできますが、その結果など、こうした市町村へ出したりしないし、市から監査で嗜好調査をやっているか？との確認だけです。 家庭にどんな質問するか？なども毎回同じになってしまいます。よって、雛形を作ってほしいです。 保育や、義務教育期間とも連携して食育の事でこれだけの考えや、計画を身近に意識づけれたら良いですね。	公立こども園あて送付している嗜好調査の様式がありますので、ご希望がありましたら参考に私立園あてに送付することもできます。 結果については、私立園におきましては市へ報告は不要ですが、保護者あてに報告をしていただくと情報共有になるかと思えます。 また、嗜好調査の結果を考察し、献立作成や食育、おたよりの内容などに活かすなどしていただく、経年変化を観察するなどすると嗜好調査を有効活用できるかと思えます。	今後の取組の参考にする	こども園課 健康づくり推進課
27	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	朝は時間がないし、副菜まで作る時間の余裕もないので、手頃に用意できるレシピを公開して頂けると嬉しいです。	令和4年度に高校生等の若い世代が簡単に作ることができる朝食レシピをまとめた「毎日元気deおはようレシピ」を静岡市HPで公開しております。 よろしければ、参考にしてください。	登載済	健康づくり推進課
28	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	3年程前に1日2食(朝夕)の生活に変え、この半年程の間に1日1食(夜)の生活に変えました。日中の活動効率等が上がりました。また、1日1食を作るだけですので、料理に対しての負担も減り、何を作ろうかと日々楽しみに暮らしております。1日3食の生活より充実しております。 一度試してみてください。	毎日の食事作りは大変ですが、簡単にできるレシピなどを活用して、1日に必要な栄養素を摂取していただけるよう、食に関する情報等について市のSNSなどで発信していきます。	その他	健康づくり推進課
29	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	大学進学と共に一人暮らしを始めてから、食生活がかなり荒んでおり、子どもの頃から料理をする習慣をつけておくべきだったと感じることが多い。数値を見ると、朝食を欠食する割合は20代、30代に特に高く、このように十分な食事をとれないことには、仕事などで忙しく時間がないということが大きく関わっているのではと考えたため、そのような人に対する政策も必要だと感じた。	令和3、4年度、高校2年生に食育啓発用まんがを作成し、令和5年度まで配布しております。社会に巣立つ前の高校生に向け、食事の用意の仕方や栄養バランス、また簡単朝ごはんレシピなどを紹介する内容です。 また、令和5年度からは「新社会人に向けた出張型食育教室」を開催し、栄養バランスや朝食摂取の重要性等について健康機器の測定等を通し、栄養士が分かりやすく説明しています。 引き続き広く周知してまいります。	登載済	健康づくり推進課

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	計画への反映状況	担当課
30	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	「若い世代において…食に関する課題が他年代と比べて多い」というのは、原因が栄養に関する知識不足などではなく、時間とお金の不足がその多くを占めるのではないかと思います。大学生以上の20代・30代は朝と夜にまとまった時間をとって調理を行ったり、複数の品を用意することは難しく、時間がない中では睡眠のために食事を削る人が多いと考えます。また、給与面でも税金により手取りが減ってきているため、出来合いの商品を買うことをためらってしまい、食事に対しルーズになっているのではないかと思います。大学生も103万円を超えてしまうと扶養から外れることを恐れてしまいアルバイトでたくさん稼ぐということができず、お金を食事に進んでまわせずにいます。	ご意見ありがとうございます。 関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課
31	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	朝食を欠食する人の中には、家庭の経済状況も関連していると考えます。学童期や思春期の親、20歳代や30歳代は自身の収入が少ないために、食費を削ろうとしているのではないかと。おかずを増やしたり、そもそも食事を複数回食べたりするのが難しい人がいれば、そのような人たちに向けた対策もすべきだと考えた。	ご意見ありがとうございます。 静岡市の「こども食堂」の取組についてのコラムを掲載し、周知していきます。 ご意見については関係部署等で共有いたします。	反映する	健康づくり推進課
32	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	若い世代、特に小・中・高校生に関しては、食の管理を本人ではなく両親などが行うことも多いと考えた。そのことから、本人たちにだけでなくその周りの大人に対しても何か施策を考えるべきだと感じた。	ご意見については、児童生徒だけでなく、保護者に食習慣の在り方や正しい知識が得られるよう、食に関する指導の参考にさせていただきます。	今後の取組の参考にする	学校給食課 健康づくり推進課
33	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	小中学校における食に関する指導・講演会を多く開催することが子どもが食に興味を持つきっかけになると思う。	ご意見については、児童生徒が食に興味をもてるよう、食に関する指導の参考にさせていただきます。	今後の取組の参考にする	学校給食課 健康づくり推進課
34	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	若いうちから、食に関する知識を知る機会が良いと思うが、実際、小中学生が学校以外で食事をするのは家庭の食事や外食だと考える。その為、小中学生だけでなく、彼らの食事を担う親世代を対象とする取り組みが必要だと感じた。	ご意見については、児童生徒だけでなく、保護者に食習慣の在り方や正しい知識が得られるよう、食に関する指導の参考にさせていただきます。	今後の取組の参考にする	学校給食課 健康づくり推進課
35	第4章(6)規則正しい食習慣	朝食を欠食する理由で多いと考えられるのは、家でご飯を食べる時間がないからだろう。そのため、対応策として、学校に来る生徒に無料でコッパンを配るなどといったことをすると思います。	自宅で朝食を摂り登校できるよう規則正しい生活習慣(食習慣)の励行とその必要性について、児童生徒及びその保護者に働きかけてまいります。	その他	学校給食課 健康づくり推進課
36	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	女性のやせは、アイドルやタレントなどの芸能界をみて、基準が分からなくなっている人がいるように思える。正しい健康の知識や、無理のないダイエット方法を広く浸透させていく必要がある。若者中心のイベントを開催し、正しい知識を授ける必要がある。	女性のやせについては低年齢化していることも考慮し、関係部署等と連携して取り組んでまいります。	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課

第4次静岡市食育推進計画素案に対する意見一覧

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	計画への反映状況	担当課
37	第4章 (6)規則正しい食習慣の実践	小中学校や大学と連携する旨が記載されているが、朝食を欠食する人は思春期で増えるというデータもあり、実際に学校給食がなくなる高校からがポイントだと思う。各高校の食堂や購買部などと連携することも必要だと感じる。	若い世代を対象とした食の取組として、引き続き、朝食の重要性について周知していきます。	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課
38	第4章 (7)環境に配慮した食生活の実践	フードロスという問題を主に牽引しているのは、飲食店などの団体であると考える。よって、一定程度協力していただいた団体に少し援助するなど何か団体向けの施策が欲しいと感じた。	食品ロス削減に取り組む飲食店をPRする「シズオカ食べきり協力店制度」を令和元年度から運営しています。この制度の運用により、飲食店と協力して食品ロス削減の取組を進めていきます。	今後の取組の参考にする	ごみ減量推進課 健康づくり推進課
39	第4章 (7)環境に配慮した食生活の実践	規格外野菜を廃棄せず、利用する取り組み。静岡もったいないプロジェクト	フードドライブ活動の推進や社会貢献型ショッピングサイトの啓発支援などを通じて、規格外や品質には問題ないが訳あって処分対象になってしまう食品の活用を推進しています。今後も、処分対象として扱われている食品が活用されるよう、取組を行う企業や活動団体等と連携してまいります。規格外野菜の学校給食活用についてのご意見は、今後の参考にさせていただきます。	今後の取組の参考にする	ごみ減量推進課 学校給食課 健康づくり推進課
40	第4章 (7)環境に配慮した食生活の実践	鍋帽子の利用で光熱費削減と同時に一つの鍋で時短、保温、調理ができ、家族との共食や温かい食事ができるので、講習を通して広めていきたいと考えている。	しずおか市消費者協会の「エシカル消費推進のための講座・セミナーの開催」の事業にて推進していきます。	登載済	健康づくり推進課
41	第4章 (8)地産地消の推進	スーパーなどで地元の農作物のコーナーがあることもあり、それは良いのだが、他のものより割高なことが多く、なかなか手を出しにくい。値段を落とすことが難しいなら、売場にその商品の特征、PRのようなものを置くようにして、他との差別化を図るよう推進してほしい。	ご意見については関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	農業政策課 健康づくり推進課
42	第4章 (8)地産地消の推進	市内の小・中学校と提携し、小・中学校で行われるイベント(バザー等)において、JA等とも協同し、地元野菜・農産物の販売を行う。(追加を検討してほしい点)	ご意見については関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	農業政策課 健康づくり推進課
43	第4章 (8)地産地消の推進	現在の対応策を保留するうえに、一条を増加していただきたいです。静岡市産物の認識度の向上のために、スーパー等に静岡市産物を試食や紹介するイベントを展開すると考えています。	ご意見については関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	農業政策課 健康づくり推進課

第4次静岡市食育推進計画素案に対する意見一覧

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	計画への反映状況	担当課
44	第4章 (9)農林漁業生産者と消費者との交流	「地場産物をPRするウェブサイトの開設」など情報を積極的に発信していくのは良いと思いました。しかし、ウェブサイトだと能動的に検索しないとなかなか目に触れる機会がなくなってしまうので、認知度向上のためには静岡県出身の有名人やアイドルなどに紹介してもらい、YouTubeやSNSの広告を利用して多くの人の目にとまり、関心を集める形のほうが良いと思いました。	ご意見については関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	農業政策課 健康づくり推進課
45	第4章 (9)農林漁業生産者と消費者との交流	狩猟者との交流も入れたほうがよいと考える。熊や鹿、イノシシが農作物に与える被害が大きく駆除をする必要があるにも関わらず、狩猟に対する忌避感を持つ人が多いので、このように考えた。	ご意見については関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	中山間地振興課 健康づくり推進課
46	第4章 (10)食文化の継承	食文化の継承を重要視し、郷土食、伝統料理を食べることが少なくなっていることが問題だとして機会を増やすことを目標にしているが、郷土食・伝統料理を知ってもらえるような取り組み(広告など)を増やしてみるのもよいのではないかと思った。	食育ボランティアと連携して広く周知していきます。ご意見については関係部署等で共有いたします	今後の取組の参考にする	健康づくり推進課
47	第4章 (10)食文化の継承	対応策をみたときに、「小学生を対象にお茶のおいしい入れ方と、お茶のまち静岡市について学ぶ授業を実施」との記載があった。私も静岡市の出身であるが小学生の時においしいお茶の入れ方教室を受けた。そのとき教えてもらったことすべては覚えていないが「最後の一滴が一番おいしい」というのを今でも覚えて実践しているため、とても良い対策だと思う。	ご意見ありがとうございます。関係部署等で共有いたします。	その他	農業政策課 健康づくり推進課
48	第4章 (10)食文化の継承	対応策が「日本茶インストラクターによるお茶の授業」であるが、そもそも最近の家庭で急須をもっている家庭があるのかと思う。静岡の名産「茶」を目標にするのは大切だと思うが、「手間がかかる急須で入れたお茶」をどうプロデュースしていくかということは弱いように感じる。であれば、急須とお茶のセットを売ってく方がよっぽど茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合も増えていくと思う。	ご意見については関係部署等で共有いたします。	今後の取組の参考にする	農業政策課 健康づくり推進課